

「マタイ8章」

イントロ:

1. 『牧師が読みとく般若心経の謎』 大きな反響。
 - (1) 仏教の「空」とは、世界に変化しないものはないということ。
 - (2) 「無」の世界の中に、真理を求める哲学的作業。
2. 聖書は、イエス・キリストは変わらないと教えている。ヘブル 13:8
 - (1) 聖書は、変わらないお方を見上げて生きるという方向を指し示す。
 - (2) 聖書が真理であるかどうかは、イエスが信頼に足りるかどうかにかかっている。
3. これまでの文脈
 - (1) メシアの系図
 - (2) メシアの誕生
 - (3) メシアの登場(洗礼)
 - (4) メシアの試験(サタンによる)
 - (5) メシアの教え(山上の垂訓)
 - (6) メシアの業(行為)
4. ここまで来て感じるのは、マタイはイエスの素晴らしさしか書いていないということ。
 - (1) この箇所は、5種類の癒しを通してイエスがメシアであることを証明している。
 - (2) 底流に光を当てて解説を試みる。
5. このメッセージによって、イエスに対する信頼を深めていただきたい。

イエスはメシアである。

マタイ8章の5種類の癒しは、イエスがメシアであることを証明している。

I. レブラ患者の癒し(新改訳聖書ではツァラアトと表記)

1. 当時のレブラ
 - (1) 今のハンセン氏病ではない。重い皮膚病。
 - (2) モーセの律法では、死人や死んだ動物に触れた場合は、儀式的に汚れる。
 - (3) 生きている人間の場合は、レブラ患者だけが、触れると汚れるとされていた。
 - (4) これは「儀式的な汚れ」である。
 - (5) レブラに感染しているかどうかを判定し、宣言するのは、祭司の役割。
 - (6) 宣言を受けた人は隔離され「汚れている。汚れている」と叫びながら歩く。
 - (7) 幕屋(神殿)に入ることが禁止されたので、霊的祝福を受ける機会も奪われた。

2. ひとりのレプラ患者がイエスの足元にひれ伏した。
 - (1) レプラが癒されることは、儀式的汚れがきよめられること。
 - (2) イエスの力を信じたが、憐れみをかけてもらえるかどうか確信がない。
3. イエスの業
 - (1) 手を伸ばし、彼に触っている。
 - (2) この人はレプラに感染して以来、誰からも触られたことがなかった。
 - (3) イエスは、「わたしの心だ。きよくなれ」と言われた。
 - (4) 肉体と魂が同時に癒された。
4. 底流:これは、メシア的奇蹟である。
 - (1) モーセの律法が完成して以降、レプラの癒しはない。
 - (2) ミリアムはモーセの律法が完成する以前の人。
 - (3) ナアマン将軍は異邦人。
 - (4) レビ記 13 章、14 章には、レプラから癒された場合の手続きが記録されている。
 - (5) 律法学者たちは、これはメシアだけが行う奇蹟だとの認識を持つようになった。
 - (6) イエスはモーセの律法に従ったきよめの手順を指示している。

II. 百人隊長のしもべの癒し

1. カペナウムに駐屯する異邦人の軍隊と百人隊長。
 - (1) 百人隊長の懇願。
 - (2) ルカ7:1~10:ユダヤ人の長老たちをイエスのもとに送っている。
 - (3) ユダヤ的な理解では、主人の名によって送られた使者は、主人が来たのと同じ。
 - (4) 異邦人でありながら、イエスはメシアとしての権威を持っていることを信じた。
 - (5) その結果、彼のしもべは癒された。
2. 底流:この癒しは、アブラハム契約の祝福の表れである。
 - (1) イスラエルを祝福する者は、祝福される。彼は神の祝福を受けるに値する人物。
 - (2) ユダヤ人たちがイエスを疑っていた時に、異邦人の彼が信じた。
 - (3) 彼は異邦人の救いの先駆けとなった(使徒 10 章のコルネリオもまた百人隊長)。
 - (4) ユダヤ人伝道の必要性。

Ⅲ. ペテロの姑の癒し

1. 身内の癒しであるだけに、特別な感情がある。
 - (1) 弱き者(女性で病者)に対するイエスの憐れみの心。
 - (2) この癒しは、超自然的なもの。ただちに起きて、イエスをもてなしている。
2. その後の展開
 - (1) 安息日が明けた。
 - (2) イエスは、悪霊を追い出し、病気の人々をみな癒された。
 - (3) イエスの権威と憐れみの心。
3. 底流:一連の癒しは、十字架の恵みの予表である。
 - (1) イザヤ書 53:4 の預言は、イエスにあって成就した。メシアの証明。
 - (2) ここでの病の癒しは、将来の「より素晴らしい癒し」の先駆け。
 - (3) 「より素晴らしい癒し」とは、魂の癒しのことである。
 - (4) I ペテロ 2:24 が語る癒しとは、「罪と死からの解放」のこと。
 - (5) マタイは、イエスの十字架の死を見ていた。

Ⅳ. 自然界の癒し

1. 弟子たちの恐れ
 - (1) ガリラヤ湖は、海拔下約 200 メートルに位置する。
 - (2) これは並の嵐ではない。
 - ① 漁師たちでさえも恐れている。
 - ② イエスに懇願している。
2. イエスの業
 - (1) イエスは寝ておられた。
 - (2) イエスは、風と荒波とをしかりつけられた。
 - ① ただちに大暴風雨が収まった。
 - ② 通常の静けさではなく「大なぎ」になった。
 - ③ ことばで宇宙を創造された方が、ことばで自然界を支配された。
3. より大きな恐れ
 - (1) イエスの実体に触れた恐れ。畏怖の念。
 - (2) 迫害に耐える強靱な信仰を養う。
4. 底流:ここは、字義通りに読むこと。
 - (1) 知るとは、体験すること。
 - (2) ハーベストフォーラム東京が始まって以降、神の導きを体験している。

V. 悪霊につかれた人の癒し

1. ガダラ人の地
 - (1) 湖の向こう岸にあるガダラ人の地。
 - (2) デカポリス(10の町)と呼ばれるギリシア・ローマ風の町の一つ。
 - (3) 異邦人の地なので、豚が飼われていた。
2. 悪霊につかれた2人の人
 - (1) 多数の悪霊(レギオンとは約6千人の兵士からなるローマの軍団)を宿していた。
 - (2) 人格が破壊され、暴力的、かつ、自虐的。墓場を住みかとするほどに絶望。
 - (3) 2人の内側にいた悪霊どもは、イエスが誰であるかをすぐに認識した。
 - (4) 悪霊どもは、豚の中に入ることを懇願した。
 - (5) イエスはそれを許可したが、これはその地方の人たちへの裁きでもある。
3. 底流: 悪霊がイエスを認識しているのに、人間は気がついていない。
 - (1) ユダヤ人
 - (2) この地方の人たち。イエスを追い出そうとしている。
(例話)最近、米国のホテルではギデオンの聖書を追い出す傾向にある。

結論

1. 5つの癒しを見てきた。
2. イエスはメシアであり、私たちを救うことができる。
3. 弟子の条件
 - (1) 最初の弟子志願者は、律法学者。
 - ①彼は、イエスが高名なラビであることを認めている。
 - ②弟子となるための犠牲を理解していない。
 - ③救いは信仰により恵みによるが、弟子となるためには犠牲が要求される。
 - ④「人の子」とは人間を表す場合と、メシアを表す場合がある。
 - ⑤イエスは、100パーセント人間であり、100パーセント神である。
 - ⑥これこそ、自己否定の究極的な姿。
 - ⑦イエスは、地上生涯においては、貧困以下の生活をされた。
 - (2) 第2の弟子志願者は、優柔不断な人。
 - ①「主よ。まず行って、私の父を葬ることを許してください」
 - ②長男は父を最後まで看取り、1年経ってから、その責務から解放される。
 - ③彼の父はまだ死んでいない。
 - ④彼の問題は、決心したけれども、その実行を引き延ばしている点にある。